

北 潟 湖

発行：北潟湖自然再生協議会
事務局：あわら市市民生活部生活環境課
Tel: 0776-73-8018
E-mail: seikatsu@city.awara.lg.jp

北潟湖自然再生協議会

検索

<活動状況報告>

- ・湖畔プラゴミ回収('19)
- ・2019年度全体会
- ・2020年度事業計画
- ・外来生物駆除特集

今年も継続！ 湖畔プラゴミ回収イベント開催

2020/3/8 地元や遠方より8名の有志が参加！

アカミミガメの外来種問題ってなに？

野外でアカミミガメが増えています



図：野外で観察されたカメの個体数の割合
(2019年北潟湖自然再生協議会「調査レポート」)
日本各地から集まったカメの観察記録は、**64%がアカミミガメ**でした。
在来種の二ホンイシガメはわずか9%でした。

生態系や農業に被害が出ています



生態系：在来種のカメの生活に影響をおよぼしたり、水草やカルガモなどのヒナを食べてしまいます。
農業：レンコンの芽を食べてしまい、農業への被害が出ています。
環境省「アカミミガメ対策推進プロジェクト」では、自治体やNGOと協力して、野外のアカミミガメを調べて駆除したり、被害の対策をすすめています。

カメポチャ



★寄贈：福井葵ライオンズクラブ2基
・カメが甲羅干しをするため網を上り、板の部分に進むと枠内の網の中に落ちる。周りは塩ビパイプなので滑って出られない。

北潟湖全体(含む福良ヶ池)にはどのくらい生息？ (目視による調査)

- ・2018/6/2調査：78匹
- ・2020/5/13調査：140匹

★駆除個体数

- ・漁協89匹(袋網で捕獲)4月～6月分
- ・再生協9匹(カメポチャ)7月～8月分(現在も捕獲継続中)

★捕獲されたアカミミガメは、公民館の冷凍庫で安楽死させた後、コンポストで堆肥化しています。



- 湖畔各集落：湖畔主要道路周辺を年に1回以上清掃作業
- 北潟小学校：全校で、日の出橋～塩尻橋間の湖内や周辺のクリーンアップ活動
- あわらかヌー協会：日の出橋～塩尻橋・アイリスブリッジ間の湖内の清掃活動
- 再生協：R305号線の北潟東～浜坂間の空白地区のプラゴミなどの回収活動

[なくならないポイ捨て！] プラゴミ:26袋 TV等の粗大ゴミ9個を回収

- ・マスクが多く捨ててありました。(ビックリ！)
- ・コンビニのポリ袋に入れた投棄ゴミが多く、道路のカーブ周辺に多かった。
- ・袋は手で触れた瞬間に砕けマイクロプラスチックになるものもありました。
- ・プラゴミは無くならないので、空気中に浮遊したり、北潟湖や海に溜まり餌と間違われ魚や他の生物に食べられたりして、人の体内にも入ります。

2019年度(令和元年度)北潟湖自然再生協議会全体会

◎新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全体会は書面議決で行いました。

1:新規委員

- ・多田 敏明 氏: 芦原青年の家所長
- ・杉本 亮 氏: 福井県立大学海洋資源学部准教授

2:副会長

- ・北浦 博憲 氏: 北潟公民館長

3:事業報告

- ①水質改善事業(水環境検討事業)
- ②生物多様性の保全・再生事業:(浜坂ヨシ原保全事業、水域ネットワーク再生事業、赤尾湿地保全・再生事業、絶滅危惧昆虫類の生息地再生事業、侵略的外来種防除事業)
- ③環境教育(学習)の推進事業(北潟湖自然再生担い手育成事業)
- ④自然再生事業実施計画作成

4:事業計画

- ④事業を除き、新たに湖の新たな活用と地域経済への貢献事業を追加
 - ①水と生きもの再生部会
 - ②伝統文化と地域経済振興部会
 - ③環境教育部会の3部会で事業を継続する。などが承認されました。
- ★全体構想の概要版は市HPで見ることが出来ます。

2020/5/13 甲羅干しするアカミミガメ:小牧

ペットとして飼った後、逃げられたり、捨てられたりしても湖に生息しています。

特定外来生物等防除事業特集

【北潟湖周辺で特に対策を要する外来種】

- ・哺乳類：アライグマ、ハクビシン(浜坂)
- ・爬虫類：アカミミガメ(湖内)
- ・両生類：ウシガエル(溜池)
- ・魚類：オオクチバス、ブルーギル(湖内)
- ・植物：オオキンケイギク、オオフサモ



■ オオキンケイギクとは

- ・明治中期に、観賞用・緑化用として持ち込まれ定着しました。
- ・5〜7月頃に黄色い花を咲かせ、花びらの先端は不規則に4〜5つに分かれています。草丈は50〜70cm。葉は、細長い楕円形で裏面に毛があります。
- ・繁殖力が強く強健なため、日本に昔からある植物を駆逐しています。

■ なぜ駆除しないといけないの？

- ・繁殖力の強い外来種が、在来種の脅威となっています。
- ・河原などの草地に生えるツリギキやマツノギク、カワラナドク等の希少な植物を守るため、各地で外来植物の駆除活動が行われています。



★キレイなのに駆除する必要あるの？



みんなで守ろう、北潟湖の景観を
特定外来生物
オオキンケイギクを除去しよう

特定外来生物(オオキンケイギク)は、駆除が非常に難しく、一旦定着すると除去にかなりの労力と費用がかかります。北潟湖のオオキンケイギクを駆除し、湖の景観を回復させよう。みんなで守ろう！

日時 6月15日(月)
9:00 集合 10:30 終了
集合場所 北潟公民館 駐車場

参加者募集!

内容 オオキンケイギクの除去

定員 30名 ※先着順

参加費 無料
当日参加費 無料(申し込みあり)

主催 北潟湖内生活環境課 実行委員会 協賛 北潟湖内生活環境課



★駆除しても、短期間ではなかなか減らない。根気よく駆除を続けましょう。 ★昨年キレイに駆除したつもりなのに！

オオフサモ観音川で見つかる！ 続々情報寄せられる！

北潟湖から遠ざけよう 特定外来生物オオフサモ

特定外来生物(植物)オオフサモが北潟湖に流入する観音川で確認されました。オオフサモは旺盛に繁殖、大群生になるため、在来生物の生態系を破壊する他、農業用水路の流れを妨げ農業被害をもたらします。地域のみならず、目で監視、こまめに駆除することで被害を防ぎましょう！

オオフサモについて 特定外来生物に指定されており、外来生物法で販売も栽培も禁止されています。

- ◆ フサフサした大きな葉(も)、毛足の長い緑のカーペットのように水面を覆う。
- ◆ 水路やため池の土だまりに根を付け、葉が横に伸びて根が立ち上がり、先葉は立ち上がって水面上に出る。
- ◆ 水面上では緑色、水面下では赤緑色っぽくなる。
- ◆ ちぎれた葉の節から根を出して再生する。

2020年1月撮影 観音川にオオフサモ群生

見かけたら、下記までご連絡下さい。

連絡先：あわら市役所生活環境課 0776-73-8018



A: 水路をふさいでしまう。(越前市では排水路がふさがれたため駆除をしている)
B: 破片が流れて増殖するので、網で防止している。(簡単に切れるのでやっかい)
C: 2tトラック1車分(約1.2t 焼却処分)、重機で駆除、水分が多く非常に重い。
・2020年3月5日：細呂木地区・崎田橋上流右岸：(再生協議会・細呂木地区・県立大・自然保護C・県・三国土木)協働作業で駆除作業に取り組みました。



早速、市民から情報が寄せられ オオフサモを確認(工大裏水田排水路)
★2020年6月8日：県立大の学生さんの協力を得て再生協議会で駆除
①完全に水路をふさいでいる。 ②根が隙間に食い込み駆除に手間取る。
③99%駆除したが④夏場に急速に増殖。再度駆除した。湖内には小片浮遊。

観音川河口でも発見！



A 地点から小片が流れ、増水時には、排水路から水田の排水路に流れ込み、水位が下がった時に、定着したと考えられます。
・オオフサモは排水路を、オオキンケイギクは庭の畑に注意して見て下さい。オオフサモを見つけたら事務局まで連絡して下さい。

